

雪氷学会北海道支部の役割

北海道開発局土木試験所

石 本 敬 志

新年度の支部総会も終り、支部も新年度の一步を踏み出しました。ある日、支部幹事会の折、支部事業を充実させる方策が話題になりました。その時、支部の役割として次のような機能を持てたら賛助会員も増え、支部の存在価値も高くなると思ったことがあります。

それは、学会支部に基礎から応用まで含めた雪氷関係の情報センター的機能を持たせることです。情報交換の機会は今でも各種研究発表会、大学や研究機関の刊行物、学会誌などがあります。しかし雪氷関係の調査の中には、国や公社公団、地方自治体や企業などが、特定の事業遂行の過程で実施するものがあり、これらの成果は報告書としてまとめられ一部の関係者の眼に触れるだけの物も多くあります。そのような事情で、同じ調査を過去の経緯を知らずに繰り返す危険もあります。

そこで学会支部が各種報告書等に関する情報を集め、研究発表等の情報とあわせて、学会員の問合わせに答えられるようになると、支部の存在価値を高められると考えます。各分野の会員から広く情報を集め、それらを体系化して、会員にフィードバックする事で会員も増えるような気がします。

稿を進めているうちに、雪氷と無縁ではあり得ない開発局の職員として、各種防雪工法の機能や信頼度、施行例などについて、自分の職場でデータベースをつくり、現場技術者からの問合わせに、より機敏に答えたいものだと感じてきました。当土木試験所でも光ディスクに技術情報をファイルし始めており、学会支部が情報センターとして動き始めたら協力できるようになるはずです。

思いつきで、学会支部が情報センターになるとは、いくら楽天家の私でも考えませんが、事業の必要性が煮つまれば、スタッフも含めた必要な体制は会員の知恵で何とかするのではないのでしょうか。

— 編 集 後 記 —

「北海道の雪氷」は、今号から総会終了後に刊行することになりました。本紙を通じて、道内の会員の情報交換が活発に行われることを希望して、情報コーナーを設けました。

各地のユニークな企画、催し、施設、研究等、数多くの情報が寄せられることを願っております。

— 北海道の雪氷 165 —

昭和 61 年 7 月 28 日 印 刷

昭和 61 年 7 月 31 日 発 行

編 集 日本雪氷学会北海道支部
発 行

札幌市北区北 19 条西 8 丁目
北海道大学低温科学研究所内
TEL. 011-716-2111

印刷所 札幌市中央区北 3 条東 6 丁目
興 亜 堂
TEL 231-0380~1